

千代の海十両昇進祝賀会

黒潮町出身の大相撲力士・千代の海明太郎さんが5月30日(水)に新十両への昇進が決定したことを受け、9月26日(水)、総合センターで祝賀会が開かれました。

祝賀会には千代の海関と九重親方が出席し、町内関係者らと喜びをわかち合いました。

千代の海関からは、「黒潮町の皆さんには、いつも応援をいただきとても感謝している。関取になって帰ってくるのができ、ふるさとへの恩返しが少ないはできたかなと思う。次は十両優勝を目指し、皆さんを安心させられるようさらに頑張っていきたい」とさらなる躍進に向けて意気込みを話しました。



千代の海関より挨拶

また、九重親方は、「小さな頃からの努力、また、良い指導者・環境に恵まれてきたことが実ったのではないか。やっとスタートラインに立てた。町民の皆さんには、今後も温かい目で見守っていただき、全力で応援してほしい。そして将来、黒潮町の子どもたちが千代の海の背中を見て、力士になりたいと思ってくれば」と今回の昇進、また黒潮町への思いを話しました。

式典終了後には、千代の海関との久しぶりの再会を喜び祝福を告げる人や、握手をして「頑張れ」と応援する人など、会場は笑顔で包まれました。



出席者と交流する千代の海関

第15回 土佐さがのもどりカツオ祭

「第15回土佐さがのもどりカツオ祭」が10月13日(土)、黒潮一番館周辺を会場に開催され、18,000人が来場しました。

同祭は、漁師のおかみさんたちが、1年の豊漁と海上安全を感謝する気持ちから平成16年に始まったもので、開会の挨拶では、実行委員長の浜岡直春さんが「美味しいカツオをぜひ多くの方に食べてほしい」と話しました。

今年のもどりカツオ祭では、約2トンものカツオが一本売りや「カツオ御膳」の薫焼きタタキなどとして販売され、新鮮なカツオを求めて多くの来場者が長蛇の列に並びました。また、カツオ御膳は約1,000食購入され、実際に食べたという来場者は、「カツオを目的に来場した。普段はなかなか食べられないが、薫焼きの香りがしてとても美味しい」と話していました。

黒潮丸前の広場では、大西町長によるカツオの薫焼き実演や、高知ファイティングドッグスの選手も参加した餅つき、また、佐賀保育所園児や幡多舞人による踊りの披露などがあり、会場を盛り上げました。

そのほかにも、子どもたちが参加する「カツオの一本釣りゲーム」や、カツオタタキ丼の食べる早さを競う「旨いもの早食い競争」、クイズ、抽選会などが行われ、参加した人々は笑顔で楽しんでいました。



漁師が焼くカツオ



一本釣りゲーム



御膳を求める列



イベント最後には餅投げも